

平成 26 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 26 年 1 月 25 日（土）に開催した石見銀山基金事業公開審査会により、平成 26 年度 4 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、5 団体から要望のあった 5 つの事業で、審査の結果、5 事業すべてが基準点以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 一般事業リスト
- ・ 一般事業審査表
- ・ 選定基準

■ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成25年 6月 1日～平成28年 3月31日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典男	島根県立大学 准教授	副委員長
高須 佳奈	島根大学 特任講師	
榎 恒雄	大田商工会議所 前専務理事	
椿 真治	島根県教育庁文化財課 調整監	
欠 員	大田市 前副市長	平成25年 11月末退任

※石見銀山基金事業公開審査会（平成26年1月25日開催）

（出席）渡邊委員、久保田委員、椿委員

■ 審査事業リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
一般事業	島根県現代彫刻振興委員会	2014 石見銀山 現代彫刻小品展 触って感じる彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒から一般まで、参加型彫刻ワークショップによる、彫刻技法の体験的学習と彫刻美術の啓発。 ②石見銀山遺跡に関連する木や石など彫刻素材の検証と活用。 ③公募による彫刻の制作展示と作家及び石見銀山住民、また、ワークショップ参加者との文化交流。 	<p>会期中の石見銀山地内来訪者と展覧会来場者が増えている。石見銀山遺跡と福光石の歴史的関連を検証教化することで、彫刻素材としての福光石の素材価値や関心を高め、流通を促進することができる。</p> <p>彫刻の纯粹美術価値を総合的実践的に検証することで、石見銀山遺跡の魅力を文化的側面から教化することができる。継続してワークショップ参加希望ならびに展覧会来場を推進し、石見銀山遺跡への来訪者を促進し、文化事業の広報に勤めることで、石見銀山遺跡の伝統と魅力をより高めることができる。彫刻の展覧会やワークショップに関心が深まることで、石見銀山の文化活動の価値をより高める。</p>
	NPO 法人納川の会	「2015年大森町民元気カレンダー」制作	大森町の遺跡、施設、神社、運動会、イベントなどを背景に大森町に暮らす住民とその場に居合わせた観光客なども一緒に撮影し、カレンダーとして大森町全戸と大田市主要施設に無料配布。また、次年は25周年の記念としてこれまでに作ったカレンダーを一堂に展示する展覧会を開催する。	<p>大森町のあちこちに見かけるこのカレンダーには、元気に暮らす住民や大切に守り継がれてきた美しい景観が映しだされている。先人より受け継いだこの美しい景観を守り育てて行かなければならない。そのことは、取りも直さず、世界遺産石見銀山を守ることに通じることである。</p> <p>また、カレンダーに毎回挿入されている「We are here」は、私たち住民が、まさにここに暮らしていることを発信し、同時にこの町の美しさを伝えている。途切れることなく続けていくことが重要と考え、50年続けることを目標としている。</p> <p>25周年を迎え、これまでに制作したカレンダーを一堂に展示し、「重伝建」・「世界遺産登録」などに尽力された方々のお話や当時の苦労話を語る会を催し、当時を振り返ることにより「石見銀山」を守っていくことの理解を深めることに役立つ。</p>
	女声コーラス花音	女声コーラス花音 45周年記念事業として「石見銀山巻き上げ節」CD 製作	春には45周年を迎えるにあたり、団員の想いであったこの世界遺産の町に石見銀山の歴史の中で女性の労働歌「石見銀山巻き上げ節」を残していき、今の世代で歌い広めたい。現代風な「女声三部コーラス」に編曲したものをCDにし、多くの市民及び次世代の子どもたちにも世界遺産石見銀山の誇りとして、歌い繋げていきたいと思う。	<p>銀山で働く当時の女声達が、苦しい労働の中、その苦しさを紛らわせながら歌っていたであろう姿を想像し、先人たちの苦難に想いを馳せ、こうして生きている私達はその姿を誇りとして働く意欲としたい。</p> <p>自由あふれている世の中で育った若者たちに、これからの人生に立ち向かうとき、その想いを共有でき、歌い繋げてほしい。</p> <p>今後、石見銀山に関する行事が行われる毎に、イベントなど他の地域、県外にもこの歌が石見銀山として誇れる歌に発信できると思う。</p>

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
一般事業	石見銀山ガイドの会	石見銀山ガイド養成講座	<p>一般市民を対象に、石見銀山ガイド養成講座を実施し、修了後に石見銀山ガイドの会の会員としてガイド活動ができる人材を養成する。</p>	<p>一般に石見銀山は、わかりにくい世界遺産だといわれています。このような中ガイドの会では、石見銀山を訪れた観光客の約1割をご案内していますが、ガイドが付かなかった観光客は、その価値や魅力をなかなか見つけ出すことができず、不満と失望をもってお帰りになる方も多い。</p> <p>現在、ガイドとして登録している会員は約70名であるが、平均年齢も高くなり、また健康上の理由や家庭事情などから、実働数は約70である。このため将来的にもガイド活動を継続していくためには、新しいガイドを要請し、補充していくことが不可避である。</p> <p>さらに、街並みガイドだけでなく、最近では山、街道などのコース整備も進み、観光客のガイド依頼も多様化する傾向にあり、これらに対応できるガイドの養成も望まれる。</p> <p>以上のような状況から、現在、中心的に行っている街並みガイドに加え、トレッキングガイドも十分に実施できるようになれば、ガイドの幅も拡がり、広範な需要に応えることができ、リピーターを増やすとともに、観光客のさらなる誘客が期待できる。</p>
	NPO 法人 緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー	<p>①森林(竹林)整備を軸としたグリーンボランティアツアーの企画と募集。</p> <p>②森林整備作業(伐採竹の活用)の実施と作業参加者への石見銀山ガイドダンス。</p>	<p>緑と水の連絡会議では、これまで、里山インターンシップおよび国際ワークキャンプ、および中長期国際ボランティアの受け入れを継続し、12年間で240名を超える若者を大田に集め、石見銀山等のグリーンボランティアツーリズムを実施してきた。</p> <p>竹林整備に関しては、市民ボランティア(市内外の大人、青少年、ユネスコスクール高校生、小中学生など)の人海戦術は作業効果が高く、森林景観が向上するとともに、参加者が満足感を持ち帰ることができる。</p> <p>事業効果は、遺跡周辺の景観の向上(繁茂する竹の伐採で遺構地形が見えるようになる)、石見銀山のファンを増やす(保全に携わったという思い出、竹資源の活用)。</p>

■ 審査事業審査表

事業項目	申請団体	事業名	評価点	採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点 (100 点満点)		
一般事業	島根県現代彫刻振興委員会	2014 石見銀山 現代彫刻小品展 触 って感じる彫刻	66.0	○	条件付き
	NPO 法人納川の会	「2015 年 大森町民元気カレンダー」 制作	70.7	○	
	女声コーラス花音	女声コーラス花音 45 周年記念事業として 「石見銀山捲き上げ節」 CD 製作	81.7	○	
	石見銀山ガイドの会	石見銀山ガイド養成講座	81.3	○	
	NPO 法人緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー	78.0	○	

※ 平均点の 6 割以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

選定委員からの条件

○2014 石見銀山 現代彫刻小品展 触って感じる (島根県現代彫刻振興委員会)

1. 石見銀山での福光石利用の歴史、福光石の特性と利用方法に関するレクチャーを添えるなど石見銀山と福光石との関係を更に明確にすること。

■ 選定基準

選定委員会では、次の評価項目について審査し、その総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業として選定する。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
①継承性	I 地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 III 目的を共有する誰もが参加できる組織による取組か。
②必要性	I 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 II 取り組む必要性が明確な事業か。
③社会的公益性、 地域貢献性	I 広く地域、社会に貢献する活動か。 II 広く公開された事業であるか。 III 応募団体の構成員や特定の個人、団体が対象となる利益事業ではないか。 IV 実施事業が団体で完結するのではなく、地域や住民との連携を伴うものであるか。 V 事業内容が地域課題の解決や活力の創出などに貢献する内容であるか。
④発展可能性	I 今後、その成果の広がりを期待できる活動か。 II 次世代の育成につながる活動か。 III 今後、継続して取り組める体制、計画か。 IV 自主財源の確保が可能か。
⑤実現可能性、 団体の事業遂行 能力	I 実施体制、事業計画（規模・内容）、資金計画（財源や用途）、スケジュールなど無理のない実現可能な活動か。 II 応募団体が企画及び事業遂行能力を持っているか。
⑥石見銀山らし さ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤などを活かす事業であるか。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みであるか。
⑦事業の新規性、 実効性	I この地域に新たに価値を付加する事業内容であるか。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものであるか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。
⑧団体の広報力	応募団体が事業実施の際し、十分な事業告知を行い基金活用の趣旨を伝えうるか。
⑨プレゼンテー ション	プレゼンテーションにおいて、的確かつ魅力的に事業を説明できたか。
⑩費用の妥当性	活動の内容に見合った経費見積もりとなっているか。

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、11段階評価で行います。

(各選定委員の最高点：10項目×10点＝100点)